

# 福祉サービスと連携を

## 十人十色

14

子どもたちの今

A子ちゃんは、もうすぐ2歳のお誕生日を迎える頃でした。A子ちゃんは、1歳になる頃から保育園に通っています。大勢のいるところが苦手で、保育園でも外でみんなが遊んでいる時には、端の方でじつし、みんなが保育室に戻つてから走り回つていました。

そんなA子ちゃんに変化が見られたのは、入園の3か月後。突然、言葉を発しなくなり、今までよく遊んでいたおもちゃに見向きもしなくなりました。ソファや床でゴロゴロと寝転がることが多くなり、関心を示すのはシンパンマンのDVDだけ。それ以外は一人で空をみつめ、ブツブツと何かつぶやいています。ご両親は「発達に課題がある

のか？」とA子ちゃんを連れて来られました。A子ちゃんは初めての場所、初めて会う相談員に不安が募ったのか、大泣きしています。不安な時に抱きしめるタオルを保育園に忘れてきたからと、お父さんはわざわざ取りに行かれました。

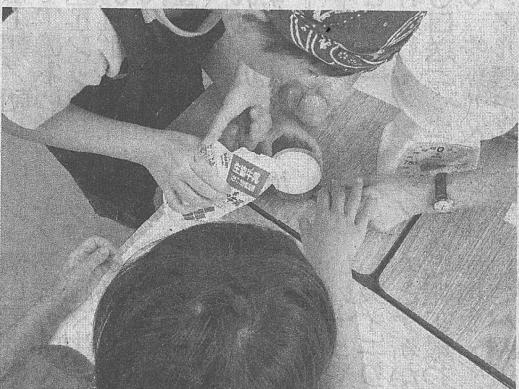
A子ちゃんの様子やご両親のお話から、なんらかの発達課題があるようを感じました。そのことをお伝えしつつ、日常的なご両親の関わり方として「三項関係」を築く遊びを提案しました。

ご両親がA子ちゃんを本当に大事にされていることを感じつつ、今まで通りの生活の中で、関わり方だけを少し意識してもらうよう伝え、保育園にも、専門家の巡回相談や保育士の加配制度が利用できること、福祉サービスとして児童発達支援事業所などがあることを案内しました。

家族だけが悩みを抱え込む必要はありません。こうしたサービスを活用し、家庭と関係機関が連携することで、発達支援は充実していくはずです。

アットスクールで調理実習に取り組む子どもたち（草津市で）

三項関係とは「お母さんも私と同じおもちゃを見てくれている」といった、対象への意識を自分と他者が共有する関係のことです。



## 発達の心配